

試験施工の実施について

令和6年3月15日

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所

1. 背景と目的

(1) 背景

- ・ 自然再生地H区間では、浅場を整備した範囲が、施工後に早期に陸地化
- ・ 陸地化した範囲に特定外来生成物のオオバナミズキンバイが侵入
- ・ 本協議会と茨城県博、農研機構等が協力し除去活動を実施
- ・ 確実に除去するには土砂事取り除く必要があり、手作業では困難



(2) 目的

- ・ 適度に攪乱される浅場を再整備し、地形・植生の変化の把握と、水辺利用の促進を図るため、試験施工を行う。
- ・ 浅場の再整備により、オオバナミズキンバイを生育基盤ごと駆除する。

2. 対象範囲

- ・H区間のオオバナミズキンバイの侵入域周辺を対象範囲とした。



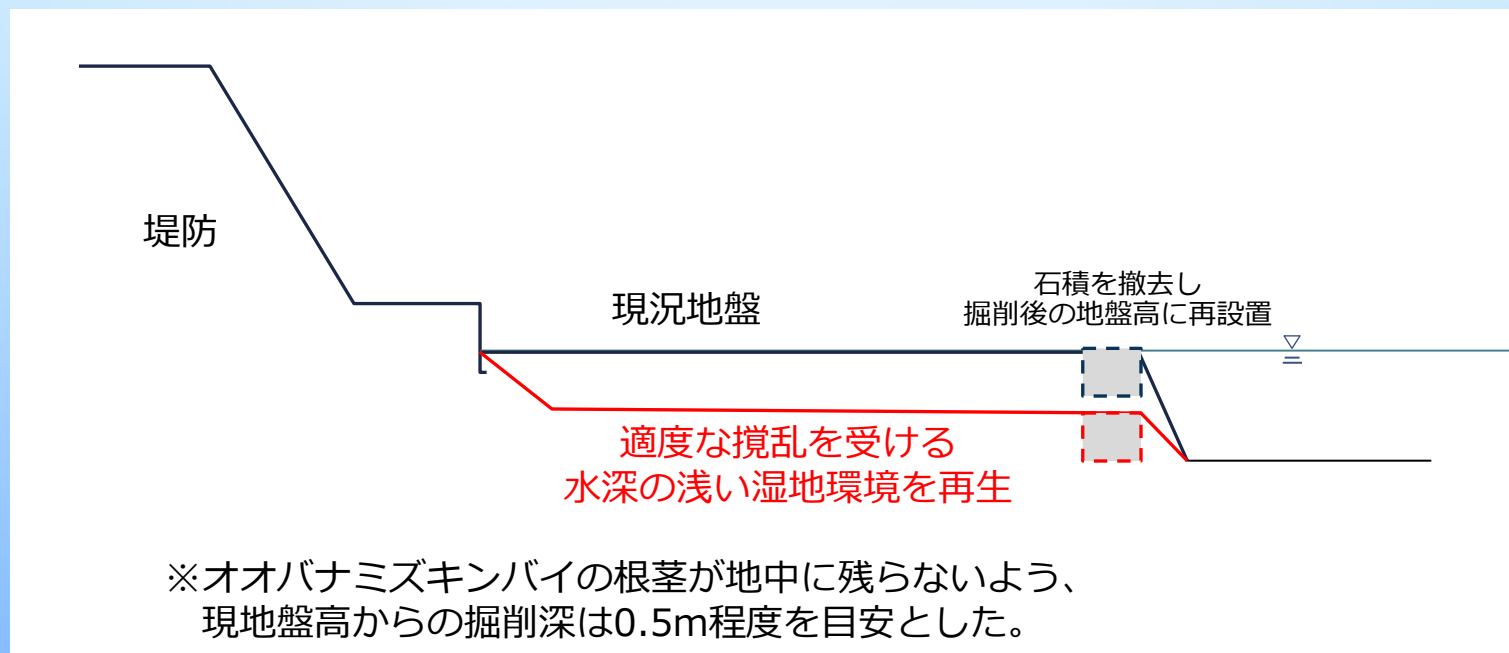
3. 整備内容

(2) 整備方法

- ・陸地化した範囲を掘削するとともに、石積みの潜堤を部分的に撤去し、水位低下時にも適度な波の攪乱を受ける広くて浅い水域を再整備

◆パターンA：オオバナミズキンバイの生育範囲

- ・地中に根茎を残さないよう、現地盤からの掘削深を0.5m程度とした。
- ・掘削後は水深の浅い湿地環境を再生した。

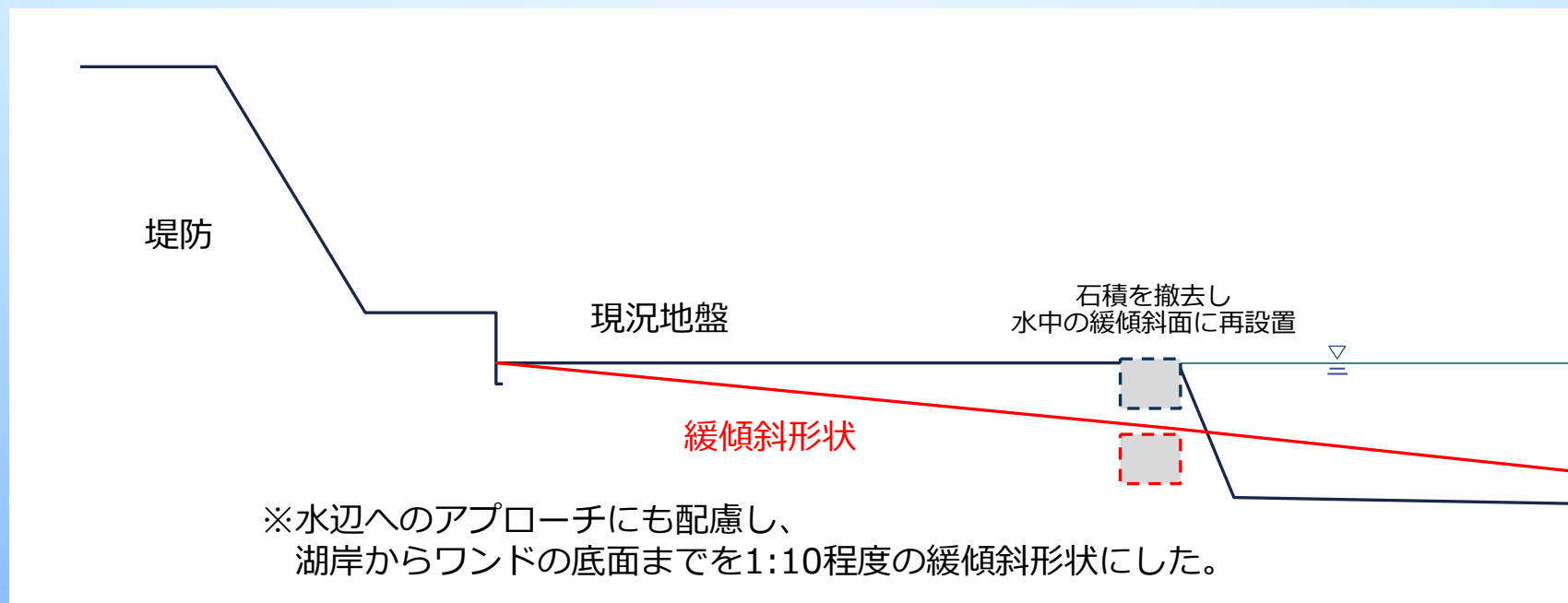


3. 整備内容

(2) 整備方法

◆パターンB：オオバナミズキンバイの生育範囲外

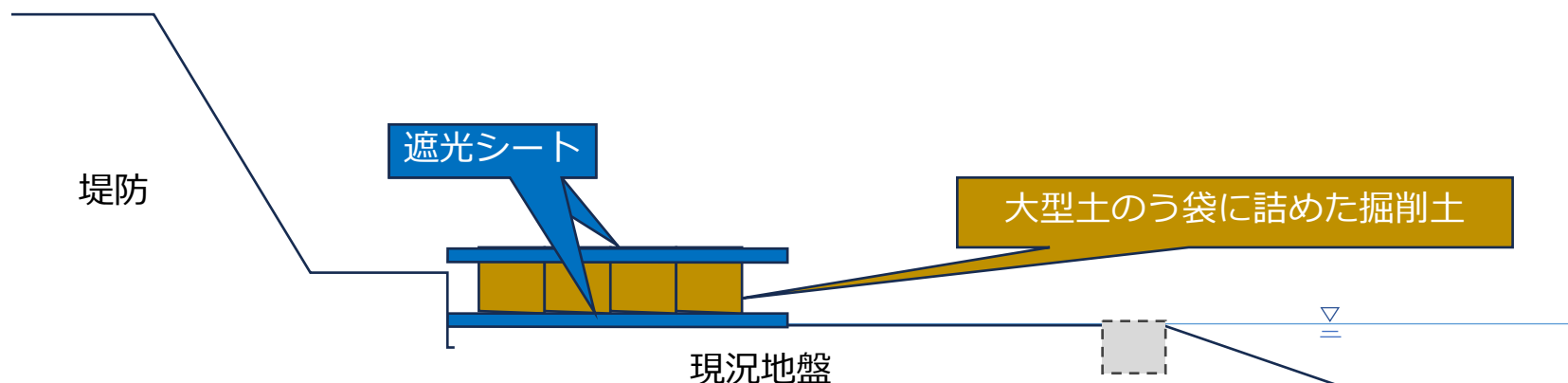
- ・環境学習などの水辺利用を促すために、
現地盤高からワンドの底面までを勾配1:10程度で緩傾斜形状に整備した。



3. 整備内容

(3) 掘削土の仮処分方法

- 掘削土は、掘削範囲近傍で乾燥化、樹林化が進行した範囲に移動した。
- 水位上昇時に水没することを考慮し、大型土のう袋に詰めて移動した。
- 再繁茂防止と枯死を促すため、遮光シートを敷いた上に土のう袋入りの土砂を置き、土のう袋の上にも遮光シートを被った。
- 最終の処分先が確定するまで仮置きし、枯死するまでの過程をモニタリングすることとした。



※拡散防止のため、大型土のう袋に掘削土を詰めて移動。

※再繁茂防止と枯死を促すため、遮光シートの上に掘削土を置き、上からも遮光シートで被う。

4. 施工状況

◆ 掘削箇所①



施工前
令和5年11月19日



陸地化した範囲に
オオバナミズキンバイが侵入



施工後
令和6年2月1日



浅く広い水域が形成

4. 施工状況

◆掘削箇所②



施工前

令和5年11月19日



陸地化した範囲に
オオバナミズキンバイが侵入



施工後

令和6年2月1日



浅く広い水域が形成

4. 施工状況

◆遮光シート被覆箇所



全景

令和6年2月1日



被覆箇所

令和6年2月1日

オオバナミズキンバイ
の生育箇所に
遮光シートを被覆

4. 施工状況

◆ 土砂仮処分場所



◆ R 6 年度から施工後のモニタリングを実施

【調査の視点】

- ・ 施工後の地形、植生の変化状況の把握
- ・ オオバナミズキンバイの再繁茂抑制状況の把握
- ・ 仮処分土内のオオバナミズキンバイの枯死過程の把握
- ・ 再整備した水辺の利用状況の把握

など